北海道新聞 朝刊 平成27年6月7日(日)

認知症 地域で支えて

札幌でセミナー 道内の先進事例紹介

認知症の人を地域で支える取り組みを紹介するセミナーが6日、札幌市中央区のかでる2・7で開かれ、市民や福祉関係者ら約80人が認知症施策への理解を深めた。

北海道社会福祉士会の主催。国内では65歳以上の高齢者の4人に1人が認知症や軽度認知障害といわれ、今後さらに増えると見込まれる。こうした高齢者を地域でどう支えていくかが課題となる中、道内の先進事例を学ぼうと企画された。

苫小牧市南地域包括支援センターの認知症地域支援推進員、桃井直樹さん(34)は、認知症患者や家族が住民らと交流する「認知症カフェ」について話した。

カフェは同市がセンターに委託して昨年から始め、現在は10カ所で展開。「介護で自宅に閉じこもりがちな家族が、日常生活の悩みを気軽に話せる場にもなっている」と紹介し、「こうした場を通して、地域住民に認知症や支援の必要性を理解してもらうことが大切だ」と強調した。

また、砂川市地域包括支援センター管理者の高橋聡さん(47)は、自ら監事を務める「NPO法人中空知・地域で認知症を支える会」での実践を報告。「医療機関や介護事業所、住民が手を携え、早期の発見・治療につなげよう」と呼び掛けた。

(久保田昌子)

苫小牧市内で展開する「認知症カフェ」について話す桃井直樹さん